セクションC：支部の創設

※　このセクションでは支部の役割を認識し、実際に支部を開設する際の具体的な方法を説明している。

実例として、支部の定款、年次報告書、ニュースレター、遺族への手紙や寄付への礼状の様式を示している。

また、グループミーティングの運営に関しても、適切な話題や講師の例をあげるなど具体的な方法を提示している。

C-1　支部のリーダーの役割

支部のリーダーの役割

- 身近な人を暴力的な死で亡くした遺族をサポートする
- 危機介入、情報提供、紹介
- 類似の遺族の紹介
- 専門家との連携
- 遺族が直面する問題について社会を喚起する
- 裁判の付き添い
- 定期的に行う自助グループの創設
- ニュースレターの発行と配布

支援する人（リーダー以外）の役割

- 身近な人を暴力的な死で亡くした遺族をサポートする
- 危機介入、情報提供、紹介
- 類似の遺族の紹介
- 専門家との連携
- 遺族が直面する問題について社会を喚起する

C-2　支部を始めるためのガイドライン

ＰＯＭＣは子どもや身近な人や友人を殺害された遺族によってつくられた組織である。ここでは以下のことを行う；

1）身近な人を暴力的な死で亡くした遺族をサポートする

2）定期的に行う自助グループの創設

3）悲嘆の過程や裁判についての情報の提供
4）遺族が直面する問題解決を援助する専門家の紹介
5）社会の喚起

秘密の保持　（抄訳）

ＰＯＭＣのすべてのスタッフ、ボランティア、リーダー、運営委員は組織メンバーのプライバシーを最大に尊重すること。（中略）

ＰＯＭＣのすべてのスタッフ、ボランティア、リーダー、運営委員は、ＰＯＭＣに反するようないかなる公的な宣言をも避け、行動を差し控えること。

ＰＯＭＣ本部への加盟　（抄訳）

ＰＯＭＣは非営利、非課税の組織である。

ＰＯＭＣの名前やロゴを使用するには、加盟が認められなければならない。

初回の会合を行う前に本部に連絡すること。必要な書類を送付する。

ＰＯＭＣ支部リーダー

支部のリーダーは類似の悲劇的な悲嘆を経験している人に対して心配りをする必要がある。電話でその人達の状況について話をしたり、特に聴くことに時間を割くことが期待される。また、そのグループ活動も助ける。宗教的な見解に拘わらず、安心できるような場にすることが求められる。刑事司法に関する問題や見解についても同様である。

支部を始める時

1）支部を始めることについて本部に知らせる。（以下、連絡方法などについては略）

2）カウンセラー、ソーシャルワーカー、医療関係者、聖職者などの専門家を探す。
遺族と共に働く意欲があり、悲嘆の過程について知っていて、批判的でなく、一か月に１回か２回グループに参加できる人。
スタート時点において、協力専門家をいれることを奨めるのは、グループにとっ

て有用であると同時に専門家を教育する助けにもなるからである。自分の感情にうまくつき合えるとき、グループでの正しいやり方について自信がなかったりする場合に、専門家の存在は一人で行う負担を軽減する。

専門家を選ぶときに注意すること。問題の解決法を全て知っていると思っている人より、ぜんぜん知らないという人の方がよい。殺人の被害者の親や遺族がどのようであるかということを学ぶ姿勢が必要である。

グループの会合が急速に発展すると、グループの運営に自信がもてるようになるであろう。４回－８回の会合の後には、専門家の参加は不要だと思うかもしれない。その時は専門家とのつながりはアドバイザー的なものにしておく。

３）会合の場所を見つける

当初は自宅で始めることが多いが、会に出席する人が多くなることを忘れてはならない。自宅は会合には不都合になることもある。月に一回程度、会が行えるような教会、消防署など地域の無料のスペースが奨められる。

同じ場所で同じ時間に開くことが大切である。

自宅以外の場所で行う他の利点は、時間の枠を決められることである。

４）広報する

新聞のお知らせの欄やラジオやテレビの広報サービスに会合の案内をする。

会合の時間と場所のほかに電話番号を加える。

５）グループのことを専門家に報せる

葬儀社、カウンセラー、クライシスホットライン、ファミリーサービス、宗教家、警察、刑事司法関係者に案内をすること。関心のある人には手紙や電話や訪問をする。人との関係は重要である。システムとだけ関わるのではなく、システムを動かしている人と関わるのである。

６）会合の時の資料を用意する

喪のプロセス、刑事司法制度、被害者援助サービス、地域で利用できる補償、その他、役に立つ情報についての資料。本部でも例示できるし、入手する手助けやコピー代と郵送代だけで提供できる。

７）会合で話すこと

自分自身の気持を話し、他の人にも話してもらうことは大切である。メンバーの人たちはそれぞれいろいろな疑問をもっている。死刑、銃規制、服役制度などについての討論は妨げになる。こうした話題についての情報は、読んだり、話し合ったりするのが適切であるが、個人的な意見

を他の人に押しつけてはならない。

話し合いのテーマの一覧は末尾に掲載してある。

8）会合で他にできること

ここの主な仕事は、遺族に喪がもたらすものに添って行う。年に3．4回、グループの人が関心をもっている話題について話をしてくれる人を招く。スピーカーを招く時には、彼らがあなた方の役に立つことを話してもらうこと、彼らが被害者に何をするかについて被害者の見通しを聞いてもらうことという二つの道筋がある。

ゲストスピーカーの一覧は末尾に掲載してある。

9）会合の行い方

会合の行い方は様々である。特にゲストがいる時などは違ってくるが、ここでは一例を挙げる。

A）自己紹介し、自分の状況を5分間で簡単に説明する。

お互いに知っていたらこれは不要なこともある。新しい参加者がいたら繰り返す。これは話をしやすくし、そうしたいと思った時は自分の話をメンバーの人たちに繰り返し話すことができる。話したくない時は、誰もそれを強要しない。

B）話のテーマを選ぶ

例えば「怒り」をテーマにした時は次のような問題が適切である；

自分の怒りに気づくのはどういう時か

怒りに付随する感情

健全な怒り／不健全な怒り

怒りを解消するために役立つこと

C）講師がいる時は、最初の挨拶と現在の問題についての短い話い合いがすんでから話してもらう。講師にとって遺族の状況を聞くことはいいことである。

D）一人の人がグループを支配して他の人たちの感情のベンチレートを妨げないようにする。また、話のテーマを選び、その問題をそらさないようにすることも支部のリーダーの責任である。

E）支部のリーダーが話題を提供したり共通性をもってグループを包み込むことは重要である。早めに話題を持ち出すと休憩の後でも会話が続く。近くに座った人以外の人々と話し合うことができる。

10）メディアをどうするか

メディアはいつかは支部があることを知り、会合に来たいと言ってくる。このことについてはメンバー達と話し合っておかなければならない。ここではいくつかのヒントをあげておく。

A）第一回目の時はメディアの出席は断る。
グループとして共に気持よくできるようになるには若干の時間が必要である。

B）メディアの出席についてグループの同意が得られるまでは見送る。
いきなりびっくりさせないことが一番であるが、メディアを招く前にグループの同意を求めておくこと。

C）カメラインタビューは望む人だけに準備をする。写りたくない人のために、写らない場所を用意するとか、メディアには会合の後にきてもらい、望む人だけに残ってもらうとかする。

D）メディアに対して要求する立場にあることを知っておく。インタビューを求められたらグループメンバーにとって望ましい状態で、制限付きで、行う権利がある。

E）ある意味でメディアはニュース価値があるためにあなた方を利用する。あなたもメディアを利用し、より多くの遺族にＰＯＭＣの支部のことを知らせる。

11）遺族の求めることについて、社会を喚起するには

グループメンバーは自分たちの悲劇的な事件を他の苦しむ人たちに役立てることを望んでいる。方法の一つにグループ内で講演部門をつくることである。事件後、遺族が直面する様々な問題について、地域の専門家（聖職者、警察官、葬儀社、ソーシャルワーカー、裁判関係者など）に提言をする。

12）新しい遺族に連絡をとる

遺族に直接連絡することや、遺族が連絡できるような言葉が必要である。その例を次にいくつか揚げる。

A）パンフレットを病院の聖職者、葬儀社、警察、スクールカウンセラー、検察、　検死官事務所、危機ホットライン、聖職者、グリーフカウンセラー、ファミリーカウンセリングセンター、被害者援助団体などに置いておく。

B）パンフレットを検死官事務所に置いておく。遺族の名前を事務所から知らせてもらうこ

とはできないが、パンフレットをわたしてもらうことはできる。

C）新しい遺族と話したいという何人かのメンバーの名前と電話番号を記した名刺をつくり、パンフレットと一緒に置いておく。

D）新聞で遺族になった人の名前と住所を知ることができる地域もある。

E）遺族から本部に手紙や電話で連絡があった時は、パンフレットなどの一式と支部の連絡先や会合についての情報を送る。その後の連絡は支部に委ねる。連絡をとるチャンスである。

最後に

会合に来られないで、電話でしか話せない人もいる。しかし、感情の落ち着きと話し相手を求めている。

参加人数は成功の目安とはならない。少人数の方が深く分かち合えることがある。　人はいろいろな方法で対処する。自助グループには関心がない人もいる。気落ちせずにグループを求める人のために続けること。